

2024年9月15日 聖霊降臨後第十七主日礼拝説教
「わたしは、だれなのか」(マルコ8章27～38節)

○マルコ8章27、28節について

「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」(27節)
救い主イエスが、エルサレムへと上って行く〈死の時〉は近づいてきた。そこで、弟子たちに「わたしは、だれであり、なんのため人となり、世に来たのか」を伝えようとされた。

「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」(28節)

☞それまでイエスと出会った者たちは、人の姿だけを見て、この方が、神の子だとは気づかなかった。そして、いまも世の人々は、イエスが、だれか分からぬまま生きている。

問：あなたにとって、イエスは、だれなのか？

今日のみことば：マルコ8章29節

「そこでイエスが ^{たず}お尋ねになった。『それでは、あなたがたはわたしを ^{なにもの} ^い何者だと言うのか。』」ペトロが答えた。『あなたは、メシアです。』

*メシア：神に選ばれし、油注がれた来たるべき救い主

「ユダの人々は…ダビデに油を注ぎ、ユダの家の王とした。」(サムエル下2:4)

☞ペトロは、みわざを現わしていたキリストが、ダビデのような王として、国を建て直すことを望んでいたのかも。

問：メシアとは、だれで、なにをする者なのか？

「人の子は 必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活する」(31節)

☆救い主イエスは、世にあるものを変えるのではなく、見えぬ人の命を救うため、これから十字架に至る道を歩まれる。

※キリストが、すべての人を救うため、あなたの身代わりとなった十字架の死をとおして、神の怒りを鎮められた。